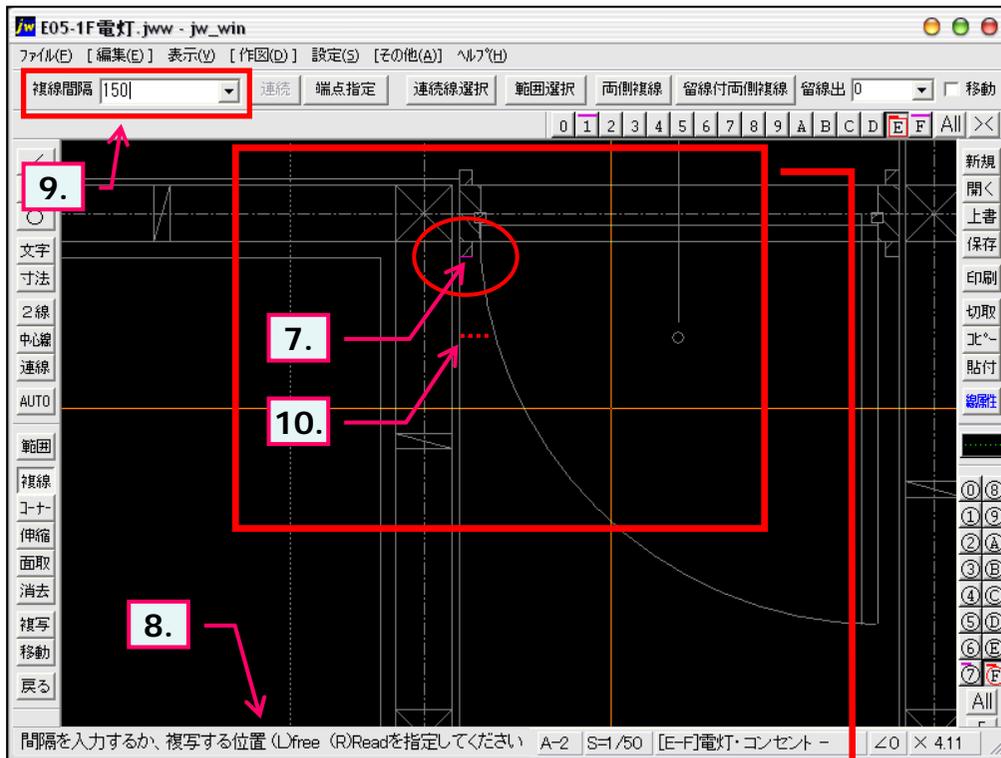


9-1(2). 図形の配置-2

図形(電気設備シンボル)の配置 - 配置する箇所へ基準点を作成(2)-壁面

図形配置の基点を決めるための基準となる線を決定し、複線(平行線)を使用して配置基点(離れ)を決めていきます。(1)



7. 複線(平行線)を作成する基準となる図形(線)をマウス左ボタンクリック:マウス(L)により指示します。
ここでは扉枠より150mm離れた場所に電灯SWを配置するよう進めていきます。

💡 前項の手順「4.」のステータスバーに表示されているヒント「前回値 マウスR」は文字通り、前回入力時と同じ間隔で複線(平行線)を作図する場合、手順「9.」(後述)で行う数値入力する手間が省けます。

8. ステータスバーに表示されているヒントを確認。
ここでの手順では「複写する位置(L)free (R)Read」操作は使用しません。

9. 複線間隔(基準線との離れ)を数値入力します。
ここでは150と入力しています。

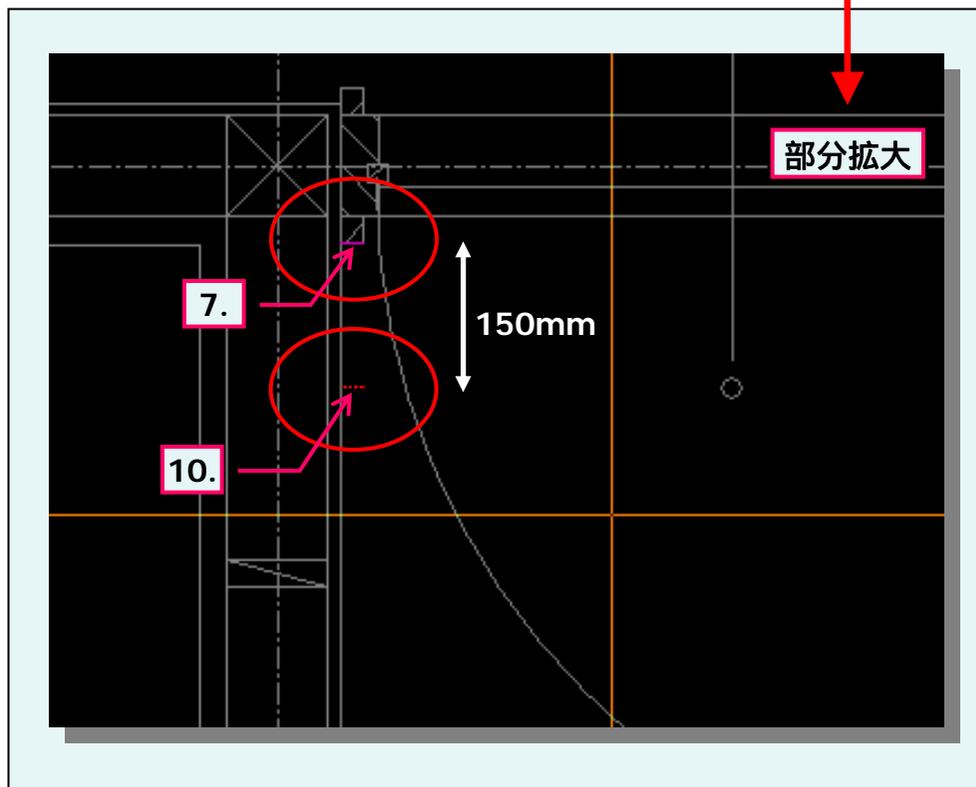
10. 図のように「7.」で指示した基準線より「9.」で入力した数値だけ(ここでは150mm)離れた箇所に指示した基準線と同じ長さの仮表示線が表示されます。

💡 仮表示線は基準として指示した線から見て、マウスカーソルがある方向へ表示されます。

この図の場合、マウスカーソル位置が「7.」で指示した線より下部にありますので下方へ150mm離れた箇所に仮表示線が表示されています。

11. ステータスバーに表示されているヒントを確認。

…次項に続きます。



11. 「9.」で数値を入力すると下図のような表示になります。

作図する方向を指示してください (Shift+L, R) (L, R→)端点指定